令和5年度事業報告書

BUSINESS REPORT

FOREST
Bless to you ...



このパンフレットは、FORESTが運営する障がい者就労支援事業所「branch for pro」が制作しました。

2023年度総括

2023 年度も沢山の方からの応援、ご寄付、ご縁を頂き誠にありがとうございました。

今年度は新型コロナウイルスの影響から回復し、国内消費の増加と観光業の回復が大きな要因となり日本経済も回復基調を続けています。特にインバウンド観光の復活はサービス業を中心に経済にプラスの影響があったかと思います。

しかし 2022 年から続く円安やエネルギー価格の高騰、サプライチェーンの混乱が影響し、多くの家計や企業がインフレーションの圧力に直面しました。最低賃金も円安や物価高を背景に 2023 年の引き上げ額が過去最高になるなど、私たちフォレストにとっても経済面で様々な対応を迫られる一年となりました。

そんな中でも障がい者就労継続支援においては新たな分野に取り組む事が出来たり、長年支援を続けてきたカンボジア孤児院の運営支援が完結を迎えるなど活発な一年にもなりました。

国内事業の活動としては、児童養護施設への物品支援の継続、障がい者自立支援として就労継続支援が主な活動となりました。

物品支援では今年度も赤い羽根共同募金会様のご協力を頂き函館の児童養護施設の子どもたちに寄付活動を実施する事が出来ました。
コロナからの脱却も進んできているため、次年度は子どもたちと直接会い触れ合う事が出来たらと思っております。

就労継続支援 A 型については 6 年目となり、一つの区切りを迎える事が出来ました。
就労継続支援の認可は 6 年単位となっており、フォレストにとってもひとつの区切りを無事に迎えられたことを感慨深く思っています。また運営当初から現在に至るまで応援頂いている企業様も多くおり良好な関係を続けさせて頂けていることが何よりも嬉しく、そして有難く感じております。

また、今年は利用者本人の自信にもつながる新たなジャンル「動画制作」にも取り組むことが出来、事業所全体のレベルアップにも繋がりました。

今回制作した動画は精神疾患や精神障害に対しての正しい理解を促すための動画となっており、企画、キャスティング、撮影、編集と全ての工程を事業所で担当致しました。撮影場所の調査や撮影許可、出演の依頼等もスタッフと利用者さんそれぞれが分担し苦手な分野にも前向きに挑戦してくれました。また多くの企業様、事業所様が快く撮影に協力してくださいました。

今回の新たなジャンルへの挑戦は私たちのレベルアップはもちろん、一福祉事業者として共生社会を呼びかける活動に利用者さんと共に関わる事が出来とても意義のある内容となりました。
また B 型は 3 年目を迎え作業における A 型と B 型の連携がより深まった 1 年となりました。
連係がより深くなったことで A 型へのステップアップがイメージしやすくなり、A 型への移行を意識する人も増えてきたように思います。

就労支援事業の活動においては全体的に明るいものとなりましたが、まだまだ課題も多く特に向き合って行かなければならない重要な課題の一つとして「就労継続支援＝低単価」のイメージ払拭があげられます。

様々な企業様とお話をさせて頂く上で、まだまだ感じることは就労継続支援へ依頼する場合、低コストで済むという印象を持たれていると感じる事です。
私たちフォレストは一般企業により近い就労継続支援事業所を目指しており、クライアント様が求めているレベルやクオリティに近づけるため日々向上心を持って取り組んでいますが、やはり世間一般のイメージが根強く価格の壁を越えられない事が多く存在します。

しかし、これまでお取引頂いた企業様の中でも仕上がりを喜んでくださったり、就労継続支援のイメージが変わったと仰ってくださる企業様も沢山いるため、日々努力を怠らず仕事に対する意識、責任感を全員が持ち取り組むことでこのイメージ払拭に向けて一歩ずつ進んでいきたいと思います。

海外事業カンボジア孤児院運営支援については、多くの子どもたちが成人を迎えた事で 2023 年度をもって運営支援については完了となりました。

カンボジアの子どもたちとの出会いから 10 年、悲しい別れや嬉しい卒業など沢山の出来事がありました。また世界的に発生したコロナウイルスによるパンデミックやロックダウンなどこれまで直面したことのない出来事も共に経験致しました。それでもこうして共に乗り越えてこれたという事は子どもたちにとっても大きな財産に繋がったのではないかと感じています。2023 年で孤児院運営支援は完結を迎えましたが、引き続きこれからもチェイホームの子どもたちを見守っていきたいと思っています。

また、まだ成人を迎えていない子どもたちについては学習支援などを含め新たな形で継続した支援を届けて行きたいと思っています。

2024 年度も引き続き縁や想い可能性を大切にし、いま私たちには何が出来るのか自分たちの最善の方法を探求しながら前に前に進んで行きたいと思います。

小野塚　舞

OVERVIEW

団体概要

世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest（フォレスト）は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、産まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないよう、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

活動方針

-MISSION- 使命

現在（いま）を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

-VISON- ビジョン

・どんな子どもたちにも平等に夢を
・どんな子どもたちにも未来への希望を
・どんな子どもたちにも無限の可能性を
・どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

-CORE VALUE- 基本理念

・子どもたちの可能性を大切にします
・人との繋がり、緑、想いを大切にし、お互いを尊重します
・自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
・最善の方法を常に探求します

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forest は、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

団体所在地

本部：〒 060-0061
北海道札幌市中央区南 1 条西 7 丁目 12-6

支部：〒 8150-042
福岡県福岡市南区若久 6-24-8

T E L 011-272-7716
F A X 011-272-7715

設立日 2013 年 12 月 3 日
法人設立日 2014 年 4 月 8 日

代表理事　小野塚　舞

E - MAIL　info@forest-japan.org
WEB　https://forest-japan.org/

障がい者自立支援推進プロジェクト

障がいのある方への職業訓練・就労のサポートを通じた自立支援

PROJECT

Promotion of invdependence support for people with disabilities 2018~

FOREST
Bless to you ...

経験は「自信」になる。
知識・技術は「チカラ」になる。

▶障害者自立支援に取り組む理由と、私たちの就労支援事業所のご紹介

経済的格差によって生じる貧困の連鎖に苦しんだり、生まれ育つ環境や境遇で可能性を奪われてしまうなど、子供たち同様に苦しい状況に置かれている障がい者の方たちに対しても、Forestができることはないだろうか、という思いから始まった事業です。

Forestが設立した多機能型就労支援事業所「Branch for pro」には、一般就労に近い形で働く「就労継続支援事業所A型」と、柔軟なスケジュールで実務作業の指導や訓練を行う「就労継続支援事業所B型」の部門があります。
同地域の他の事業所に比べ高い専門性、技術力を特徴とし、小さな単純作業から総合的な制作まで企業様より仕事を請け負い、日々業務に取り組んでいます。



Forestが運営する多機能型就労支援事業所

Branch for pro ブランチ フォー プロ

多機能型就労支援事業所
BRANCH FOR PRO

Branch for proは「就労継続支援事業所A型・B型」と「就労移行支援事業所」の部門を持つ、多機能型就労支援事業所です。
A型は事業所に直接雇用され、事業所が請け負った仕事に取り組んでいます。雇用期間の定めはなく、勤務時間により雇用保険等にも加入できるなど、一般の就労に近い形になっています。

B型は雇用契約を結ばない形ではありますが、利用者と相談のうえ通所スケジュールを調整しながら、実務作業の指導やスキルアップのための訓練及びサポートを行っています。



雇用されている障がい者やスタッフそれぞれが得意分野をもち、Webサイト制作・プログラミング（Javascriptなど）・DTP（チラシ・名刺等の作成）・経理業務に関わる業務代行といった専門知識を要する業務を行っています。

クライアントの要望に応えるためにはチーム内での打ち合わせが不可欠で、 技術力だけでなく、コミュニケーション力・発想力・提案力などが求められる非常に高度な業務内容です。
「基本情報技術者試験」「ウェブデザイン技能検定　2級」「日商簿記検定2級/3級」「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト（MOS）Wordスペシャリスト/Excelスペシャリスト」等の資格保有者も在籍しており、実務に対応できるよう日々積極的に勉強を続けています。

また、2020年1月に導入した本格的なオンデマンド印刷機を使って、 地域の中小企業や個人事業主様を対象にデザインから印刷製造まで含めたトータルサポートを行っています。

札幌圏では、このような専門的な業務が行える就労支援事業所は数少ないため、障がい者本人の自立を助けつつ、メンバーそれぞれの得意分野を活かしあうことで事業所自体も成長していけるような、他に類のない場を目指しています。

各部門の紹介と2023年度実績

就労継続支援A型「Branch for pro」開所：2018年1月～

A型では、主にWeb・DTP制作および業務代行の二分野で業務を行っています。
Webチームでは、受注したWebページの制作（主にWordPressサイト）や、名刺・チラシ・パンフレット等のDTP制作を、 業務代行チームでは企業・個人事業主様の経理業務や一般事務等に関わる業務代行を行っています。

A型・WEBチームより

本年度は、様々な媒体で放映するための動画制作をコンテ制作から行ったり、飲食店の外国語のメニュー印刷といった、一般のWEB・DTPの範疇を超えた新規分野の仕事も多く、対応力の向上につながりました。
また、技術面でも効率向上を図るため、Wordpressのビルダーツール、InDesignなど新しい分野の学習を積極的に行いました。
資格合格者は昨年度より数が減少しましたが、合格者が次の受験者に助言を行ったりなど、スキルアップに対する前向きな雰囲気は継続されています。

◆本年度の実績例
・T社 WEBサイト改修（4月）
・L社 会員冊子（7月）
・L社 バザーチラシ（8月）
・札幌市）令和４年度NPO法人年報データ修正（8月）
・札幌市）特殊詐欺啓発チラシ（8月）
・E社 ショップウィンドウ用ポスター/自動車用マグネットシート（9月）
・N社　WEBサイトドメイン移管（9月）
・札幌市）心のバリアフリー広報動画（10月）
・R社 排雪手旗（10月）
・R社 クリスマスカード作成（12月）
・D社 外国語（韓国）メニュー（12月）
・FOREST WEBサイトリニューアル（12月）
・札幌市）認定・指定NPO法人制度知っとくガイド（1月）
・札幌市）地域福祉社会計画2024（2月）
・K社 広告チラシ（2月）
・情報系専門学校WEBサイト改修（3月）



チラシ・冊子製作



Forest Webサイトリニューアル

A型・業務代行チームより

個人事業主の方からのご依頼をもとに行う会計ソフト入力や記帳処理、調査代行に加えて、本年度から他部署が作成した書類の印刷・ファイリング業務、リライト等が業務内容に加わりました。昨年度よりも仕事のバリエーションが増えたことで、総合的な仕事の技術向上に繋がりました。

就労継続支援B型「Branch for step」開所：2021年1月～

開所三年目となったB型では、A型の業務の支援（名刺等の検品や印刷用紙のメンテナンス）、調査代行といった作業を継続しつつ、本年度より書類作成作業も担当することとなり、PCスキルアップにもつながりました。
通所者の方の希望する分野を中心とした資格取得に向けた学習、ステップアップに対する支援も引き続き図ってまいります。



[2023年度　合格実績]

日商簿記検定試験　2級　1名
日商簿記検定試験　3級　2名
基本情報技術者試験　1名
illustratorクリエイター能力認定試験　エキスパート　1名
ファイナンシャル・プランナー　3級　1名
宅地建物取引士資格試験　1名
マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel　エキスパート（MOS）　1名
マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel　アソシエイト（MOS）　1名

[2023年度　就労実績]

[A型　Branch for pro]　WEB
一般就労　1名

[A型　Branch for pro]　業務代行
一般就労　1名

[B型　Branch for step]
一般就労　1名
A型事業所就労　1名

令和5年度の振り返りと翌年度に向けて

本年度は、昨年度に開始されたBranch内の各部署を横断する業務にさらなる発展がみられました。
調査代行にとどまらず、資料作成や資料整理といった付随業務が増えることで、事業所単位で一連の業務を行えるようになったことは大きな変化です。
また、資格合格者数も前年度に引き続き安定しており、A型B型共に一般就労へ移行した利用者もおります。
大きな業務と業務の合間にできた時間などを有効活用することで、「スキルアップ→資格取得→仕事への活用」という好循環が作用しています。

次年度以降も、WEBチームは新たな分野の仕事への積極的チャレンジ、業務代行チームはより多業種のクライアント様を担当できるよう目指してまいります。
就労継続支援B型ではスキルアップへの取り組みと支援を行いながら、在籍者数の増加、通所の安定を目指して取り組んでまいります。

その他の国内事業のご報告

2023年度物品支援

社会福祉法人 函館国の子寮：雪上バナナボート
社会福祉法人 函館厚生院　くるみ学園：自転車





※イメージ

ONE PIECE FOR PEACE

チャリティ名刺
2021 年 1 月より就労継続支援で全ての作業を行い、企業様から障がい者自立支援、そして児童支援へと繋がっているこの支援活動 ONE PIECE FOR PEACE も 10 年を迎え今年も 27,000 ピースが集まりました。
引き続き地域社会と関わりながら変わらないピースを届けて行きたいと思います。



ONE PIECE FOR PEACE
この名刺は児童支援に繋がっています。
Support The NPO Forest

MEMBER'S VOICE

Branch for pro 利用者の声

資格取得者にインタビュー！

Q1 事業所の良い所を教えてください。

Q2 今年度の仕事を通じて感じたことを教えてください。

Q3 資格を取ろうと思ったきっかけや勉強で苦労したこと・大変だったことはありますか？

Q4 今後挑戦したい資格や目標などがあれば教えてください

A 型 Web チーム　T さん　入所 1 年半

A1 仕事に集中できる環境と、気軽に質問できる雰囲気です。訪問看護の制度があり体調の変化を相談できるので、とても働きやすいです。

A2 指導員（スタッフ）からのお話がきっかけで、今までやったことがない仕事や使用経験のないデザイン系ソフトの勉強に挑戦しようと思いました。

A3 2023 年 4 月より通年試験になり実施日が大幅に増えたので受験しやすくなった点と、試験の出題形式の変更で挑戦しやすく感じたのがきっかけです。苦労したこと・大変だったことは、アルゴリズムの勉強です。

A4 今後の目標は、WordPress を使った Web サイト制作の仕事ができるようになることです。

A 型 業務代行チーム　H さん　入所 2 年以上

A1 作業しやすい環境で、適度なコミュニケーションがとれるところです。資格取得のサポートもあり、スタッフの方々が親身になって対応してくれるところも魅力です。

A2 インボイス制度により作業手順が追加され、よりレベルの高い作業内容を求められるようになりました。マニュアルを用いることで、なるべく誰でも同じ作業内容が行えるよう共通の認識を持つようにしています。

A3 顧客に個人事業主が多いため、FP2 級の選択科目の一つに「中小事業主資産相談業務」があり、簿記に関連する内容もあった為、まずは FP2 級の受験資格となる FP3 級を取得しようと思い勉強を始めました。苦労した点としては、試験の範囲で「不動産」や「相続・贈与」などの普段自分の生活ではあまり関わらない部分があり、少し取り掛かりづらかった事です。

A4 2024 年 9 月の FP2 級試験に向けて勉強中です。

B 型　K さん　入所 1 年未満

A1 B 型には各ブースに仕切りがある為周りの目が気にならず、程よく静かで空調もきいているので勉強に集中しやすい環境が気に入っています。作業や勉強に関してわからない点や気になる事があれば、スタッフや周りの方がわかりやすく教えてくれます。

A2 作業を比較的自分のペースで行うことができるからか、入所当所に比べて徐々に通所日数を増やしていくことができました。以前は周囲への適合を余儀なくされていたように思えるので、そのような環境から離れることができたことも一因なのかもしれません。

A3 きっかけは、学生の頃に簿記がカリキュラムになかったことと、今後の就職先の選択肢が広がればという思いからです。だんだん受験に対してプレッシャーを感じて、対策問題などを解くたびに不安になってしまうこともありました。そんな中で、自分に合った勉強方法をみつけることに苦労しました。

A4 今後のことも考え、通所日数を増やしていきたいです。また、日商簿記 2 級の受験も検討中です。

海外事業のご報告

OVERSEAS BUSINESS

CHEY CHILDREN'S HOME 2023年度活動報告



ごあいさつ

昨年からご報告しておりました通り、2023 年末をもちまして、フォレストからチェイホームへの継続支援は予定通り、無事完了することができました。

2014 年 6 月からカンボジアの孤児院のこどもたちの自立を応援すること約 10 年、この長きにわたり支援を継続できたのは、言うまでもなくこれを読んでくださっている皆様の温かいご理解とご支援があったからです。

今年度のご報告に先立ち、まずは皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

チェイホームへの支援完了の経緯と2023年度の取り組み

そもそも支援が完了を迎えた理由は大きく 2 つありました。

1 つは約 10 年の支援の中で（新たな子どもの受け入れを制限していたこともあり）チェイホームの子ども達が大きく成長していたこと。

もう一つには現地の管理者である大人たちが、孤児院の運営の終了を希望していたことからです。

はじめて孤児院の解体の相談を受けた時、管理者の大人たちがチェイホームの子ども達を「本当の家族」のように接していたことを知っていたので、正直驚きの感情が先に立ちました。



しかし先に上げたように、その時すでに孤児院にいる子ども達が大きく成長していたこと、また自立に至らない年齢の子ども達のその後を、大人達が真剣に、そして具体的に考えていたことから、フォレストとしてもその思いを尊重し、支援を 2023 年度で完了することを決定しました。

そして昨年度は子ども達のその後の身の振り方が正しい方向に向くよう見守ること、そして子ども達の精神的なケアをすることを重点課題として支援に取り組んで参りました。巣立っていったのかをご報告いたします。

現在のこども達について



現在の子ども達に触れる前に、上記写真はフォレストが支援をはじめた当初のチェイホームの様子です。
ご覧いただいてわかるように、当時は 19 名の子ども達が在籍していました。
それから約 10 年の月日が経ち、2023 年時点では 9 名の子ども達が残るのみとなりました。
その 10 年の間には、しっかりと自立し巣立っていった子ども、働ける年齢になり親元に帰った子ども（カンボジアでは経済苦から親が健在でも孤児院などに預けられる子どもが一定数存在します）、準備不足と思われる形で孤児院を出たけれども、その後なんとか自立してくれている子ども、また不慮の事故で望まない形でお別れすることになってしまった子どももいます。

皆様のご支援に支えられ、そんな思い出深い 10 年を最後まで一緒に過ごした子ども達が、現在どのようにチェイホームを巣立っていったのかをご報告いたします。

各子供の一年の成長記録

●ナロン（Mr. Sok Narong）男性 / 2002年3月5日生



小さい時から障害を持ち、半身が上手く動かせないナロンは、現在、自分の意思で出家し、お坊さんになることを夢見て日々修行に励んでいます。（左写真は2024年5月撮影）

障害があり、生活の中で自分ひとりではできないことがあるナロンですから、彼のこの決断を聞いた時には驚き、正直反対もしました。ただ何度も話し合いの場を持ち最終的に自分で決断したナロン。

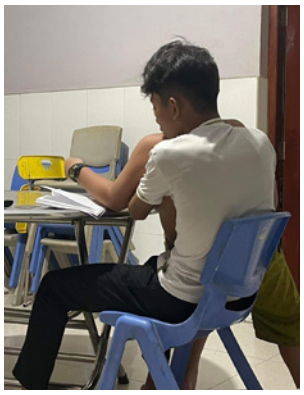
その固い決断は今現在も続いており、今年に入ってお寺に訪問し、再度「戻る気はないか？」と訊ねても、やはりその決断は変わらなかったそうです。それどころかお寺での彼はイキイキしており、日々頑張っている様子がひしひしと伝わるほど、精悍な顔つきになっているのが印象的です。



約10年前（写真右）、初めて出会った時からいつも明るく前向きで、周囲の人を笑顔にしてくれたナロン。
ただこれほど立派に成長してくれるとは、正直予想をはるかに超えた成長に、人の可能性を見せてくれました。

彼は身体的には人より大きなハンデを背負って生きていますが、その分だけ苦しむ人の立場に立てる立派なお坊さんになってくれるのではないかと、今では大きな期待を寄せるほどに成長してくれています。
そんな彼の可能性をつないでくれた皆様の支援に改めて感謝いたします。

●メタ（Mr. Sok Mata）男性 / 2002年6月15日生



ナロンと同じく孤児院では最年長だったメタ。早く自立して働きに出たい彼の思いとは裏腹に、現在はチェイホームや（管理者のひとり）マナビーさんの家で居候をしながら、自立の為にもまずは高校卒業に向けて、今年も引き続き頑張っています。

ちなみにすでに独立し働いているヒン（メタの実兄）も実は同じようにチェイホームやマナビーさんの家に居候していますし、元々難しく考え込むようなタイプでは無いメタにとって、家族のようなチェイホームの大人達がいる場所は、きっと彼にとっても（良くも悪くも）居心地の良い場所なのでしょう。

とはいえ兄のヒンは働いたお金を皆のために入れるなどして経済的にもしっかり貢献してくれていますから、メタにも早く自立した大人になってくれることを強く期待しています。



ただ出会った当初（写真右）から変わらず純粋で無邪気、良くも悪くもマイペースなメタ。正直言って勉強はできるとは言えませんが、家事や畑仕事、家畜の世話など積極的に取り組み、年長者を敬い、年少者と一緒になって遊ぶ、実にカンボジア人らしい素敵な青年に成長してくれています。

そんなまっすぐな青年に育ったのは、もちろん皆様のご支援の賜物です。改めてありがとうございました。

●ソピット（SokSophit）女性 / 2003年12月25日生



昨年度、無事に高校を卒業したソピットは、現在ポッテビーさんの養子となり、プノンペンのマナビーさんの家で暮らしています（共に管理者姉妹）。

現在の勤め先はアルバイトとして薬の販売をしていますが、カンボジアでは転職はネガティブなものではなく、キャリアアップを目指しながら経験を積むというのが一般的な発想です。

彼女にもしっかり働く経験を積んでもらい、より良い条件のもとで活躍できるよう頑張って欲しい。
そして実は日本が大好きで、日本語でも少しは会話できるくらいの力を持っているソピット。一緒に住んでいるマナビーさんからいつでも日本語を教えてもらえる環境にいるわけですから、もっと日本語を上達させ、いつか日系企業で働き活躍してくれると嬉しいなと、個人的には期待をしています。



何はともあれ、出会った頃から（写真右）、ダンスも歌も絵も上手で、人懐っこく愛嬌の良い器用なソピット。
そんな彼女ですからきっと社会でも立派に成長してくれると信じています。

そしてもちろん、そんな素敵な女性に育ってくれたのは、皆様のご支援があったからこそ。
改めて長期間にわたる皆様のご支援に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

●サムナン（Mr. SokSomnang）男性 / 2008年5月10日生



管理者のポッテビーさんの養子となったサムナンですが、現在は中学校に通うため、プノンペンのマナビーさんの家に住んでいます。

元々地頭が良く、将来は医者になる夢に向かって日々勉強に励んでいるサムナンですが、実は私が彼の印象で強く残っているのは彼のサッカーをしていた時の姿です。

出会った頃（写真右下）は身体のサイズが同年代の子どもよりも小さい印象を受けるサムナン、普段は口数が少なく物静かな印象の子どもでした。
しかしサッカーをしている時の彼は、自分よりも身体の大きな年上の相手にでも臆さず、当たり負けすることもなく、アグレッシブにボールを取りに行く姿をみて、とても驚きました。



しかも裸足で革製のサッカーボールを思いっきりシュートし（慣れていないと声が出るくらい痛い！）、多少足を腫らしても気にせずプレーする姿には感動すら覚えたくらいです。

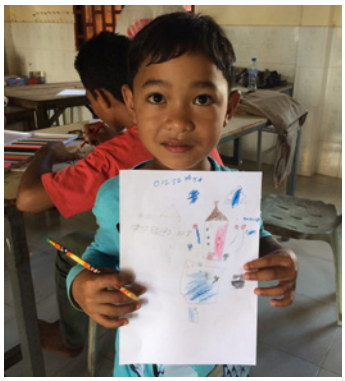
そんな芯の強さをもつサムナンですから、これからもその芯の強さを活かし、素敵な大人に育ってくれるのを期待しています。
そして当然、そんな彼を支え、育んでくださったのは皆様の温かいご支援のおかげです。改めてありがとうございました。

●チャンブルティ（Mr. VongChanrithy）男性 / 2009年1月12日生



サムナンと同じく、プノンペンで中学に通うチャンブルティ（マナビーさんの実子）。
昔（写真右下）は愛称で「チュッピー」と呼んでいましたが、今はそんな子どもっぽいあだ名で呼ぶことがはばかれるくらい、立派な青年に成長しています。

通常の中学校とは別に英語のスクールにも通う彼は、英語力も益々上達。
来年にはなんと、そのスクールを卒業できるかもしれないところまで上達しているそうです。そして順調に卒業できた暁には、奨学金を得て外国に留学もできる可能性もあるらしいですよ！



このチャンブルティとサンアンは管理者であるマナビーさんの実子ではありますが、彼女の「孤児院の子どもは全員が家族」という考えに賛同し、また孤児院の運営に全てを捧げる彼女達家族の姿勢に共感し、フォレストでは彼等2人も孤児院の子どもとして、食費などを支援してきました。

だからチェイホームの子どもであるチャンブルティが、これから世界に羽ばたき成長する可能性を見せてくれていること、本当に嬉しく、誇りに思っています。

そしてもちろん、彼のこの成長を支えてくださったのも、皆様の温かいご支援の賜物です。本当にありがとうございました。

●レサー（Mr. SokRaksa）男性 / 2009年7月4日生（写真左）

●レサット（Mr. SokRaksi）男性 / 2009年8月10日生（写真右）



チェイホームの解体に先立ち、新天地での学校新学期に合わせて一足早く（2023年10月）にチェイホームを旅立ったレサーとレサット。
兄弟のように仲良く育った2人そろって、新たな孤児院にお世話になっていたのですが…、残念ながら問題を起こし、2024年の4月（他に行くあてがなく）チェイホームへ帰ってきております。

問題を起こしたのはレサットで、残念なことに先方で、人の物を盗むなどの問題行動を繰り返してしまったそうです。それにより孤児院にいれなくなったレサット、彼を一人にはできないと、レサーも一緒にその孤児院を出ることになったそうです。

正直、とても悔しいです。

と言いますのも、実はレサットは寂しがり屋で、チェイホームにいた時から注目を集めるために（盗みほど悪いことはしないにせよ）時々問題行動を起こしていたことがあったからです。
子どもは愛情に飢えていると、大人の注目を集めるため問題行動を起こすことがあります。

私がチェイホームに泊まりに行った時には、いつも（後半はかなり身体が大きく成長していたのにも関わらず）狭い私のマットレスに潜り込み、身体をひっつけてよく一緒に眠りにきたレサット。
愛情が足りてない（と感じさせてしまっている）ことはわかっていたのです。




出会った当時のレサット（左）とレサー（右）

チェイホームから送り出すにあたり、心のケアに注視してもらったつもりではいましたが、きっと新しい孤児院で不安や寂しさが大きく膨れ上がってしまったのではないでしょうか。

今回チェイホームのポッテビーさんマナビーさんには、戻ってきた2人に悪いことをした時には叱ることも当然必要、ただそれ以上に良いことをした時にはぜひ沢山褒めてもらうよう、改めて深くお願いをしました。

実は孤児院を解体し支援もない状態のチェイホームで、レサーとレサット2人に継続的に十分な教育を受けさせることは困難です。とはいえ2人にとって、戻る場所、愛情を与えてもらえる場所としてチェイホームがあって本当に良かったとも思います。

とても難しい問題であり、暗いご報告にはなってしまいましたが、今後も注視して見守りたいと思いますので、引き続き応援よろしくお願いいたします。

●カニタ（Ms. SokKonitha）女性 / 2012年2月18日生



チェイホームに常駐するポッテビーさんの養子となったカニタ。

引き続き成績優秀で、学校でも常にトップクラスの成績を持って帰ってきてくれています。

近所の子ども達、特に女友達との関係も良好で、精神的にもとても安定し、健やかに育ってくれているのが嬉しい限りです。

出会った頃（写真右下）から瞳の奥に強い意志を感じさせる、不思議な魅力を持つ女の子、カニタ。



当時から負けん気が強く、男の子との喧嘩でも一歩も引かない心の強さを持っていましたが、その強さを勉強にも向けて励み、今も成長し続けてくれているのがとても心強いです。

最近のカンボジアでは女性も能力さえあれば、仕事で重要なポストを任されることも珍しくありません。
ずいぶん気の早い話にはなってしまいますが、このまま彼女が彼女らしく、意思の強さや負けん気の強さを活かして、立派な大人になってくれることを大いに期待しております。

そんな素敵な彼女を常に応援してくださり、ここまで支援してくださった皆様に改めて感謝申し上げます。

●サンアン（Mr. VongSothearith）男性 / 2014年7月生



見るたびに大きく、そしてお父さんにそっくりになっていくサンアン（マナビーさんの実子）。去年までの2~3年は横に大きく育っていた印象でしたが、昨年度は縦にも大きく成長しております！

出会った頃（写真右下）は赤ちゃんだったサンアンが、皆様のご支援のおかげでこれだけ大きくなりました！

兄のチャンブルティと同じくマナビーさんの実子ではありますが、先にご説明した通り、サンアンもチェイホームの子どもとして支援を続けて参りました。



赤ちゃんだったサンアンが、これだけ大きく成長するくらい、長い間皆様に支えて頂いてきたのがよくわかる見事なまでの成長ぶりです。

ちなみに彼の父であり、マナビーさんの旦那さんは、心優しい軍人さん。
ぜひ彼にもお父さんと同じような、強くて優しい立派な大人になって、未来のカンボジアを支えてほしいものです。

改めて、皆様の長きにわたる温かいご支援に感謝いたします。

孤児院を卒院後の子供たちの近況

●チン（Ms. Peab Chhing）女性 / 1999年3月生





左：現在　右：出会った当初のチン

2021 年から日本語と日本式の介護の勉強を始めたチンは、晴れて 2024 年 2 月、日本の広島に移住し、現在も日本語を勉強しながら介護の仕事に励んでいます！慣れない海外生活や日本の物価高に驚きつつも、日々頑張っています！

●ソチータ（Ms.SokSocheata）女性 / 1999年9月生

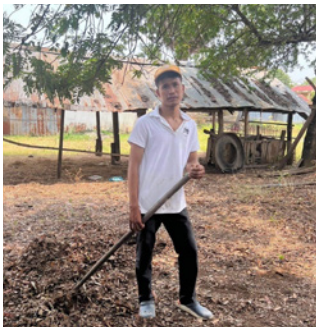




左：現在のソチータとポッテビーさん　右：出会った当初

昨年度に引き続き、機械工場で工員として働くソチータ。真面目で優しい性格の彼女はチェイホームに居候しながら、働いたお金の一部を入れ、チョモラウンくんの薬代などに当ててくれています（ソピットやヒンも同様）。

●ヒン（Mr.PeabLeheang）男性/ 2000年1月生




右：出会った当時のヒン

プノンペンで電気工事をして働くヒンも、チェイホームの皆の生活を支えてくれるお兄さんの一人です。週末にはチェイホームに顔を出し、チェイの作業も手伝ってくれています！

●チョモラウン（Mr. SokChomreun）男性 / 2000年4月生




左：現在　右：出会った当時のチョモラウン

足に障がいを持ち、鎮痛剤がなければ睡眠すらままならないチョモラウン。就職は難しいからと昨年度はネットで釣具販売を試みましたがうまくいかず、今は小さなカフェに挑戦しています。

周囲の応援で開いたお店ではありますが、その思いに報いるためにも、まずは自分の薬代を稼ごうと、日々頑張っています！




ちなみに支援当初は荒れた砂の道路だったチェイホームの前の道も、今ではすっかり綺麗に舗装されており、車の通行量も増えています。

主観を込めて振り返るチェイホームの歴史とフォレストの自立支援

チェイホームが誕生したのは 1994 年。
今の管理者であるポッテビー・マナビー姉妹のお母様が創設した孤児院です。

最盛期は 100 名超の多くの子ども達が在籍し延べ卒園者は約 500 名にものぼり、その功績はカンボジア国王にも表彰をされるなど名誉ある孤児院です。

しかし早くして創始者のお母様が死去。



その思いを引き継ぐ形で今の管理者である姉妹 2 人が運営を引き継いでから、状況が変わります。

子どもの数は減り、寄せられる寄付金は減少。
私たちフォレストがチェイホームに出会った頃は、このままではあと数ヶ月で閉院を免れないという危機的状況でした。

それでも私たちが出会った頃のチェイホームは、そんな財政的　な問題は抱えつつも、自然豊かな広大な土地に笑顔と元気溢れる子ども達がする素敵な孤児院でした。またそこに関わる大人達も、経営能力こそ不足しているかもしれないけれど、子ども達を愛し、その成長に心血を注ぐ素敵な方達でした。

ただ当時フォレストでは在名古屋名誉領事の高田領事が開設を予定していた新しい孤児院を支援する計画を立てていました。
しかし当時その孤児院の開設が難航しており、高田領事からも「チェイホームを支援してあげて欲しい」とご要望頂き、そして何よりこのまま手を差し伸べなければチェイホームの子ども達がバラバラになってしまうという状況もあり、最終的に支援先をチェイホームに切り替えることを決断しました。
こうしてフォレストが一緒に伴走することになったチェイホームは、第一印象通り素直で可愛く、家事や畑仕事なども積極的なお手伝いする、とても良い子ども達でした。また大人達も印象通り、子どもに大きな愛情を持って接していました。
しかし、支援を始めて暫く経ったある時、ひとつの違和感に気付きます。



「なぜチェイホームには卒園生がほとんど遊びに来ないのだろう？」

創業者のお母様こそ亡くなられていますが、その頃からチェイホームで働いていたポッテビーさん、マナビーさんがあとを引き継いで運営している孤児院です。
また卒園生にとってチェイは故郷同然のはず。それなのに、卒園生がチェイホームを訪れることはほとんどありませんでした。

ちなみにカンボジアの若者は、働きに出るとそこで稼いだお金を実家に入れることが普通で、日本の感覚から言えばかなりの割合で家にお金を入れています。実家と離れて暮らしていても、お盆やお正月にはお金を持って実家に帰り、家族と共に楽しい時間を過ごします。

そんなカンボジアでは当たり前の感覚を、チェイホームでも実践できないか？もしできればチェイホームがいつまでも持続可能な孤児院になるのではないか？そしてそれは卒園生にとっても、帰るべき家を持てるメリットになるのではないか？

違和感に気づいた私は、そんな思いを管理者のマナビーさん達に伝えました。

「話はわかるし、そうなればいいなと思います。でも難しいです。」話を聞いた彼女たちの反応は、当初は意外にもネガティブなものでした。



彼女たちは孤児院を通じて、たくさんの子どもたちに与える人生を送ってきました。しかしそれに対して何かを返してくれる子どもたちは思いの外少なく、それを繰り返すことで子どもに期待をしないようになっている様子でした。

ただそんな（当時の）現状は、『孤児院を巣立つ子どもたちにとって「恩に報いる」という人間として大切な感覚、それを今迄のチェイホームでは教えてあげられていなかったのではないか？』『与えられたことに対して感謝し、ありがとうと言える心を、そしてその気持ちを行動に移す気持ちを、子どもたちが孤児院を巣立つ前に教えてあげるべきではないか？？』

そんな話をまずは大人から、そして「恩に報いる」という発想を、まずは卒園が近い子どもから、事あるごとに伝えるよう心がけました。

ある時はカンボジア人の講師を招き、カンボジア人としての心構えを教えてもらったりもしました。





また日本から支援者が遊びにきてくれた時には「どんな思いで支援をしているのか」を直接伝えてもらうなど、様々な手法で思いを伝えてきました。

もちろん、そんな取り組みをしている中でも、卒園し連絡が取れなくなってしまった子もいます。

ただ昨年末孤児院を解体するその最後まで残ってくれた多くの子どもに関しては、卒園してからもみんなでお金を出し合って、同じく孤児院に所属していた子どもの薬代を今も出し合うなどしてくれています。

また週末に遊びに来る子ども、さらにはほぼ居候のような形で泊まりに来ている子どもなど、孤児院が閉鎖した後も深く関係が続いています。

チェイホームが孤児院として運営を終えてからではありますが、フォレストが支援を開始当初から伝えてきた「自立支援」のひとつの形を、こうして子どもたち自身が見せてくれていること、これは本当に嬉しいことです。

そしてこれが、今までの皆様の温かいご理解とご支援のおかげでできたチェイホームの支援の成果です。

そんな活動を支えてくれた皆様に、改めて感謝申し上げます。

長きにわたる温かいご支援、本当にありがとうございました。